



保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解、ご協力をいただいておりますことに、心からお礼申し上げます。

さて、今年4月に実施した標記の件につきまして、個人の結果については、6年生の保護者の皆様に「個人票」を通してお知らせしたところです。本校全体の状況について分析・考察を進めて参りましたので、その結果の概要についてお知らせ致します。この調査は全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の改善を図るとともに、学校における学習指導に役立てることを目的としております。本校でもその目的を押さえつつ教育課程や授業の改善に生かして参りたいと思っております。

なお、この結果については、本校の6年生を対象に国語・算数の2教科の実施であることから、必ずしも本校全体の教育活動の結果を表すものではないことを申し添えます。今後とも本校の教育にご理解・ご協力をいただくようお願い申し上げます。

I. 学力状況調査から

国語

記述式問題は全て、全国の正答率より8~19%上回っており、誤答のほとんどは、複数の正答の条件が全てを満たすに至っていなかったためでした。また、無回答率が0~2.6%と低く、何とか自分の考えを形にしようとする意識がとても高いといえます。全国を下回ったのは漢字と敬語の問題でした。総合的には**全国平均を上回る結果**となりました。

実際の問題 正答率が特に低かった問題

1 設問三(1)ウ

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるか問う問題<3.4年既習>

(問) きかんは7月1日から15日までです。

(答) 「期間」

- ・無回答はありませんでしたが、2文字とも誤答し、文意に合った漢字が書いていませんでした。本校では、漢字の学力保障テストを合格するまで取り組み、力をつけてきましたが、実践的な活用力が不十分でした。

3 設問三

○日常よく使われる敬語を理解しているかどうかを問う問題<5.6年既習>

- ・尊敬語と謙譲語について理解していないと考えられます。

三 谷さんは学習をふり返り、インタビューをするときの敬語の使い方について、ノートにまとめています。次の「谷さんのノートの一部」の「ア」と「イ」に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【谷さんのノートの一部】

聞きのがしたことを相手に確かめるとき

○〇さんが ア ことを、もう一度 イ いいですか。

1 ア おっしゃった イ うかがって

2 ア 申した イ お聞きになって

3 ア おっしゃった イ お聞きになって

4 ア 申した イ うかがって

★ 学校での具体的な指導 ★

- 物語や説明文の学習では、書かれていることを精読して読み味わうことにより、文章表現や構成に目を向け、その後の言語活動に生かしていく学習過程を位置づけます。
- 日常的に様々な文章に触れ、書いてまとめる学習を位置づけます。国語科だけではなく、各教科の中で様々な情報の中から「わかったこと・考えたことをまとめる」「聞いたことをまとめる」など、必要な情報を取捨選択し、よりわかりやすくまとめる活動を繰り返して指導します。
- 語彙が不足していることによって、文章の内容を理解できないことが考えられます。読書の推奨や国語辞典、教科書の補助ページ等を活用して指導します。
- 漢字については新出漢字に加えて、既習の漢字のさらなる定着のために定期的にチェックし、普段から習った漢字を使う、という意識を高めていきます。

算数

知識・技能の力を問う問題や短答式の問題については、他の領域や形式に比べ、正答率が高い一方、思考・判断・表現の力を問う問題、特に「変化と関係」（比例）と「図形」（三角形）の領域には課題が見られました。総合的には**全国平均とほぼ同様（上位）の結果**となりました。

実際の問題 正答率が特に低かった問題

2 設問（4）

○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるか問う問題 <選択と記述問題（思考・判断・表現）図形（第5学年）>

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。

1 ㊸の面積のほうが大きい。
2 ㊹の面積のほうが大きい。
3 ㊸と㊹の面積は等しい。
4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

・三角形の意味や性質についての理解が不十分であるため、底辺の長さが等しいことと、テープの幅が変わらないことから三角形の高さも等しいことに気が付いていないと考えられます。誤答には、4の「このままでは比べることができない」を選んだ児童が多くいました。全国的に正答率が低かった問題です。（本校は全国平均以上）

4 設問（1）

○百分率で表された割合について理解しているかを問う問題 <選択問題（知識・技能）変化と関係（第5学年）>

・示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを2つ選ばなくてはなりません。「○人をもとにした○人」という表現が、日常的に使われていないため、理解しづらかったようです。百分率が理解されていれば、ウは選択できるはずですが、2つ目を誤って選択した児童が多くいました。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
イ 100人をもとにした3人の割合
ウ 100人をもとにした30人の割合
エ 10人をもとにした3人の割合
オ 30人をもとにした1人の割合

★ 学校での具体的な指導 ★

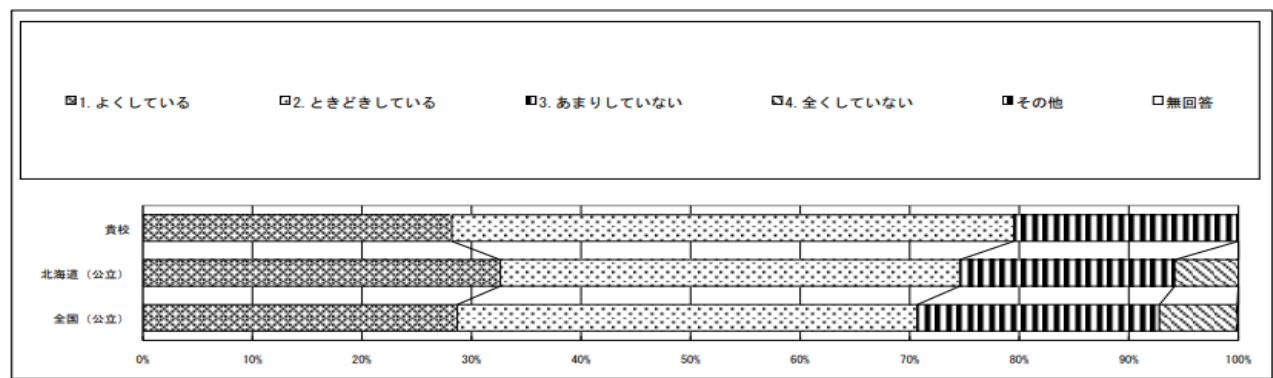
- 「数と計算」領域の学習は、最低保障学力テスト等を活用しながら、確実に身に付けられるように引き続き指導し、習得の不十分なところについては担外による補充指導を行います。
- 表の読み方（「表題」「項目が何をあらわしているか」等）やグラフの読み方（「表題」「縦軸があらわしていること」「横軸があらわしていること」「縦軸の1目盛りの数値」「増えているところ」「減っているところ」「グラフからわかること等」）を、算数だけではなく社会や他の教科の学習でも指導します。
- 教科書にある例示をもとに条件をつけて説明を書かせる活動を、日常の授業の中に位置づけます。
- 授業の中で行われている「理解深化問題（わくわく問題）」の中で、日常生活の事象を数理的に捉え判断する問題を数多く設定し、子どもたちの読解力・活用力を高めます。
- ICT 機器を有効に活用するなど、「視覚に訴える活動」や「具体物を用いた活動」を通して、図形に関する学習の理解を深めます。

教育活動全体としての指導

- 各教科・総合的な学習の時間・特別活動などにおいて、取材、記録、報告、説明、感想、助言など多様な様式を用いた言語活動を位置付けます。
- 他教科でも図表やグラフの中の情報と文章を関連付けて読んだり、表現したりする活動を位置付けます。
- 題意を読みとり、文中に解答の根拠を見出し、サイドラインを引くなどの活動を行います。
- 教科指導においては、日常生活と関連付けた指導を進めていきます。
- 正答の条件が複数ある問いを意図的に設定し、自分の考えが条件を満たしているかを振り返ることを意識させ、客観的に検討し判断する力を育みます。

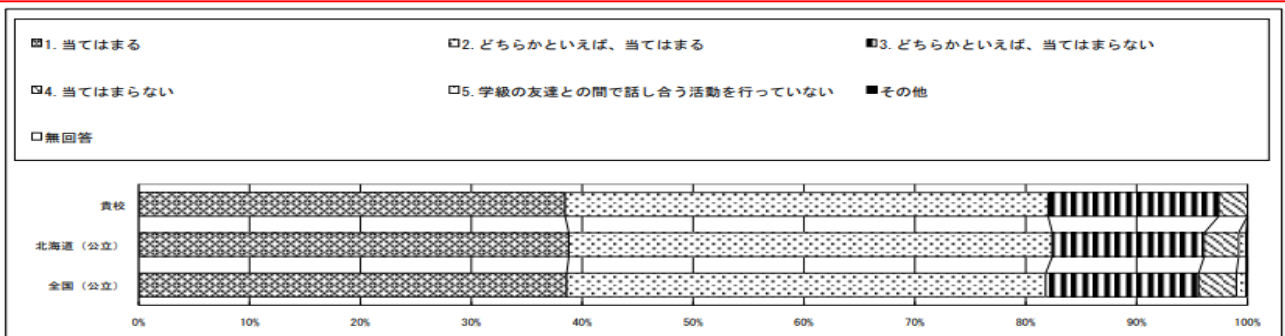
Ⅱ. 学習状況調査（児童質問紙）から

① 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。〈全国平均以上〉



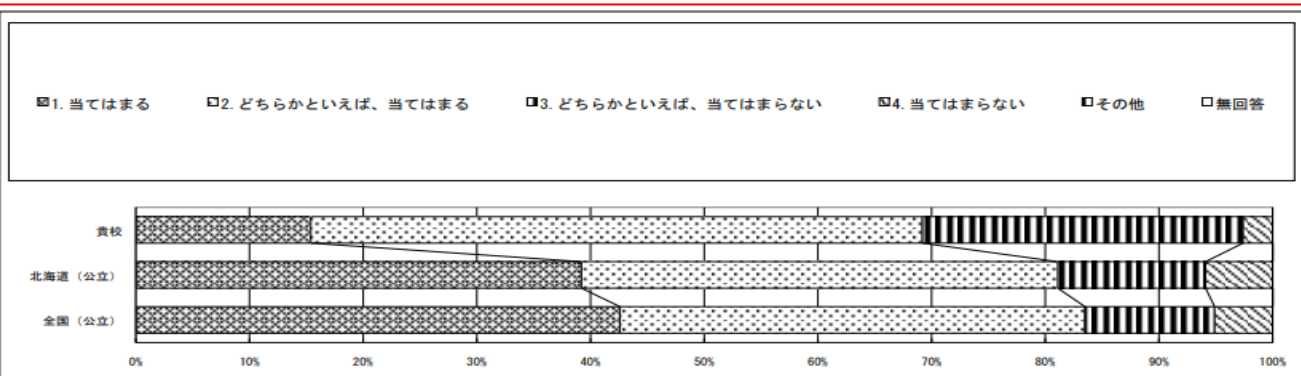
家庭で計画を立てて学習している児童は、「よくしている」「ときどきしている」の割合は、R3 年度から増加傾向にあり、今年度も「ときどきしている」を含めると全国を上回り、「全くしていない」が昨年同様の 0%でした。今後も、学習の自己調整力を育む指導を継続していきます。

② 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。〈全国平均並み〉



話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできていると答えた児童は、1・2 を合わせて R3 年の 55.1%から R4 度は 83.3%と大きくポイント増やすことができました。今年度は全国並みでした。ノート交流やハイシンクボードなど ICT を活用した交流を取り入れるなど、目的に応じたツールを活用して今後も授業改善を進めていきたいと考えています。

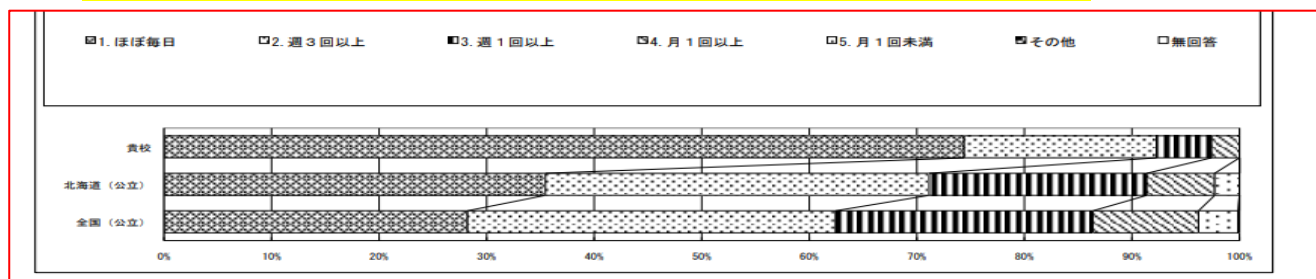
③ 自分には、よいところがあると思いますか。〈本校の課題「自己肯定感」の項目〉



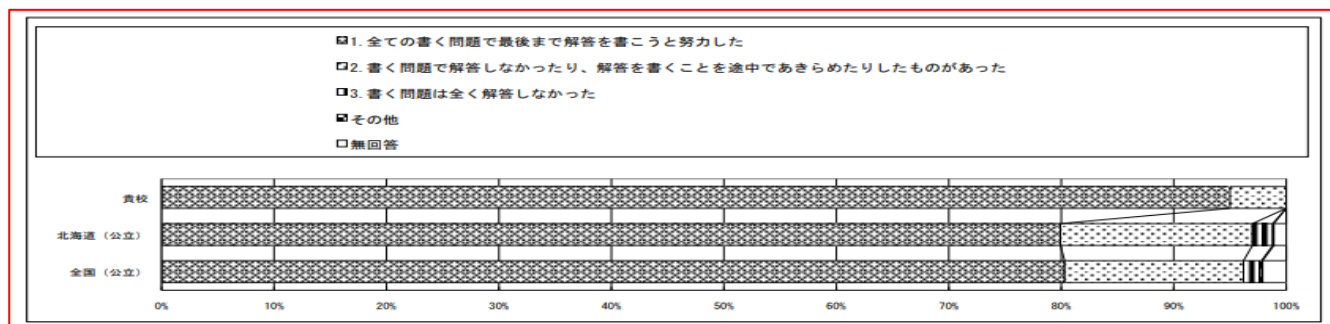
自分にはよいところがあると思っている児童の割合は R3 年度 59.2%→R4 年度 77.8%→R5 年度 69.2%で、8.6 ポイント下回りました。特に「当てはまる」と答えた児童が 15.4%と昨年度より極端にダウンしました。次項の「先生は、あなたの良いところを認めてくれているか」についての肯定的な回答は、全国・全道が 90%を下回る中、自校は、94.8%でした。今後も認め励ます指導を継続していきます。

＜全国より突出している項目＞

④ 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。



⑤ 算数では、言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。



- 毎日の授業で、一人一台端末（タブレット PC）の活用が進み、端末が当たり前学習ツールとして定着しています。
- 算数も国語も記述式問題に対し、最後まであきらめずに、自分の考えを書く前向きな姿勢が育っています。

ご家庭へのお願い

以上が今年度の児童質問紙の概略です。本校では年3回の生活リズムチェックを行っています。その集計結果も参考にいただき、ご家庭においても、以下の点に留意されますようお願いいたします。

◇規則正しい生活習慣を確立するために

- 毎朝、朝食をとってから学校へ登校させてください。
- 決まった時間に就寝・起床し、睡眠時間をしっかり確保してください。

◇家庭学習の時間を確保するために

- テレビやゲーム・動画の視聴をする時間など、家庭でのルールをつくり、守らせてください。（いしかりふれあい DAY の取組を進めてください）
- 今年度も、花川中学校の定期テスト時期に合わせ、わくわく放課後学習会を行っています。学校でも集中して家庭学習に取り組む期間を設定しておりますので、ご家庭でもこの時期に合わせて家庭学習への声掛けをお願いいたします。
- 学習する時間を決めましょう。
※学習する時間は学年×10分が目安です。

◇読書をする習慣を確立するために

- 読書をする時間を決めてください。
- 読書の大切さについて、時々話し合ってください。
- 時間があつたらすぐに読書ができる環境をつくってください。
- 地域の図書館へ行くとき、お子さんも一緒に誘い合ってください。

学年別最低保障学力

本校では、どの子にも最低これだけは身に付けさせる基礎学力として、漢字、計算を柱とし、学年別に達成基準を設定して、繰り返し学習、評価テストを実施しています。

正答率 80%以上を達成者として、学校全体として達成者が 90%以上になることを目指しています。わかるまで、できるまで努力する花小の子ども達は、テストでも最後まであきらめずに取り組む意欲・態度が身に付いています。

地域・家庭・学校が一体となって

国の施策である GIGA スクール構想によって、児童一人一人に学習用端末機（タブレット）が整備され、学校での授業の進め方にも変化がありました。これからも、子どもたちの確かな学力の定着に向けて、地域・家庭・学校が一体となって子どもたちを支えていきたいと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いいたします。